

令和7年度 愛媛大学教育学部附属幼稚園 学校評価報告書

教育目標	総括
<p>自分らしさを生かし、ともに生活を楽しむ幼児の育成</p> <p>(研究テーマ) 夢中になって遊ぶ子どもの姿を求めて ～学びをつなぐ～</p>	<p>前期研究までの成果を踏まえ、目指す幼児の育成に向けて、今期研究から、「夢中になって遊ぶ子どもの姿を求めて～学びをつなぐ～」をテーマとした研究をスタートした。夢中になって遊んでいる姿とそうでない姿についての事例収集等を通して、夢中になって遊ぶ子どもの姿を支えるための教師の援助や子どもの夢中を引き出したものや活動を考察した。また、幼稚園で培った学びを小学校につなぐ観点から、架け橋プログラムの推進にも力を注いだ。取組の成果と課題を研究大会で発信し、2年次に向けて研究の方向性を見出すことができた。</p> <p>9月に預かり保育の開所が実現した。幼稚園の在り方検討WGで園の課題について検討を重ねてきた成果である。また、同WGで幼小連携と少子化に対応した組織改編案を作成し、文部科学省への事前相談を行った。令和10年度に組織改編をする予定である。</p> <p>社会の変化に対応した園運営で教育活動を推進し、これからも地域に貢献する附属幼稚園を目指していきたい。</p>

項目	具体的な目標 (評価指標)	評価	成果(○)と課題(・)	改善策
1 研究	<p>保育の質向上と情報の共有 ～子どもの育ちの視点から～</p>	A	<p>○ 「夢中になって遊ぶ」という視点で保育をすることで、保育の質の向上につながっている。</p> <p>○ 保護者が夢中になって遊んでいる子どもの様子や学芸会などの行事の様子を見て、成長を感じてくれている方が多い。</p> <p>○ 架け橋プログラムとして幼小合同研修会を開催し、幼児教育で大切にしていることを小学校全教職員に対して発信した。また、小学校公開授業参観に努めた。授業から、新たな学びがあった。</p> <p>・ 教職員間で行うカンファレンス等での情報交換で、保育の質の向上という視点では不十分だという意見がある。</p>	<p>◇ カンファレンス等教職員で情報交換をする機会を増やし、保育の質の向上につながる幼児理解や援助などを相談する。また、他附属園や松山市立幼稚園での研修会に積極的に参加し、学んだことを教職員に周知して、保育の質の向上につなげる。</p> <p>◇ 架け橋プログラムとして学びをつなぐ観点での取組を推進する。</p>
	<p>保育の質向上と情報の共有 ～情報の効果的な共有化の視点から～</p>	A	<p>○ わくわくステーションを楽しみにしている保護者は多い。子どもとの会話につながっている。また、写真を見て、子どもの遊びの様子をより具体的に知っ</p>	<p>◇ 保護者へ保育の意図や育ちについての縦のつながりなどが伝わるように、更に情報発信の方法を工夫する。具体的には、その日あったことだけを伝えるのではなく、保育の意図について、学級部会や日々の降園前連</p>

			<p>てもらうことにつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で載っている写真を見て、「もっと自然な様子が見たい」「友達とのかかわりを広げてほしい」と考える保護者もいる。また、預かり保育を利用する保護者は、降園前連絡を聞くことができない不安を抱いている方もいる。 	<p>絡でしっかりと伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保護者一人一人にあった連絡が求められている。預かり保育を利用し、降園前連絡を聞くことができない保護者には、登園時の時間を活用し、前日の遊びの様子や最近の遊びの様子を伝える。
2 教育課程	<p>子どもの育ちを支える園行事の工夫・改善</p> <p>～個々の育ちを支える教育課程の実施～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な行事を日々の保育と連動させながら確実に実施することができた。 ○ 架け橋カリキュラムの作成、実施、見直しを行った。 ・ 行事に向かうまでの活動や終わってからの余韻も含めた実施計画や教師間の目的の共有が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 幼児の育ちにとっての意義、発達に応じた活動内容や活動の流れなどを事前・事中に教師間で確認しながら、行事に取り組む。 ◇ 週毎の反省やドキュメンテーション、期の振り返りを生かし、次の活動や次年度の行事の計画につなぐ。 ◇ 架け橋カリキュラムについては、研究の視点から幼小合同で研修を充実させ、改善を図る。
	<p>子どもの育ちを支える園行事の工夫・改善</p> <p>～園の活動や行事の工夫～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会や学芸会等をおして、成長した姿を見ることができたと感じている保護者が多い。全学年を参観し、幼児の育ちについての理解が促されている。 ・ 保護者から園行事への参加の在り方についての要望が多い。各行事の目的を共有し、協力を得ていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 園評価等を活用して保護者の思いを迅速に受け止め、園の活動や行事の目的を明確に定めた上で反映させていきたい。そのためにも、執行部との連携を継続して大切にする。 ◇ 行事の中でPTAに協力をお願いするところについては、事前に意図を説明するとともに、関わってよかったと思えるように配慮する。
3 連携	<p>附属学校・大学等との連携強化</p> <p>～附属校との交流の保障～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校との交流は、計画的に行うことができた。子どもたちにもよい影響がある。各校の先生方と顔見知りになることでより交流がしやすくなる。積極的に幼稚園側からも働き掛けていきたい。 ・ 小学校とは、幼児の学びをつなぐ観点の連携が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各交流活動のねらいを明確にした交流活動を行う。 ◇ 架け橋プログラムとして学びをつなぐ観点での取組を推進する。
	<p>家庭・附属学校・大学等との連携強化</p> <p>～大学とつながる活動の実践～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園の在り方 WG では、附属学校園担当副学長、教育学部長、大学幼児教育担当教員、小及び中学校管理職、事務職員がメンバーになり幼稚園の課題について検討を重ねた。令和7年9月から預かり保育(にじいろ)の開所 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今後は、預かり保育の実施体制について改善をしていく必要がある。 ◇ 子育てミニ講座は、講座内容をより具体的に発信して参加者を募る。大学の先生方の協力を得て継続した活動にしていくためにも保護者の協力が必要である。 ◇ 大学の先生と行う勉強会

			<p>が実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てミニ講座は、希望する内容についてアンケートを実施し、8回開催した。保護者が興味関心を持っている講義内容を諸先生方が準備してくださり、参加者から好評を得ている。参加が難しい保護者に向けて、HPで内容を発信している。かねてより要望のあった附小1・2年生の保護者にも開催案内をした。 ・ 積極的に大学の先生方に頼って、保育もよい方向へとつなげていけたらよい。 	<p>の内容を充実させ、保育の質の向上に努める。</p>
4 企画情報	<p>情報発信の工夫・充実 ～HP等を活用した情報発信について～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育支援アプリを導入し、1家庭につき何名名でもアプリ登録が可能になった。避難訓練での保護者参集連絡、園及びPTAからの文書配付、アンケート機能の利用、各行事のプログラム配付等利用頻度が高い。 ○ 教職員は、同アプリの園務支援のシステムを活用し、業務改善を図っている。預かり保育においては、降園時刻の正確な時刻を打刻して、保育料算出根拠資料を作成している。 ・ HP、インスタグラム、ドキュメンテーションと園児の様子を伝達する手段が多岐に渡っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育支援アプリを有効に活用し、教職員の業務改善を図る。 ◇ HP、インスタグラム、ドキュメンテーションと多様な方法で情報発信を行っている。それぞれ目的やターゲットが異なるので一本化はできない。現状の更新頻度を保てるように努力したい。
5 健康安全	<p>子どもの命を守る健康安全教育 ～健康・安全についての意識や行動力を育てる取組～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児に対し、手洗いやうがい等の実施、歯磨きについて、丁寧な保健指導を継続した。 ○ 交通安全教室では、松山東署、交通安全協会、PTA執行部の協力を得て、実施した。登降園時には、幼児と保護者が手をつないで交通安全に気を付けて歩くことを繰り返し伝えて、理解促進に努めている。 ・ 登降園時の歩き方については、危険を感じる場面があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 登降園時の歩き方については、普段の降園前連絡や教員による見守り等により保護者の啓発を行い、保護者と連携して、交通安全に努めたい。
	<p>子どもの命を守る防災教育 ～災害時に自分の命を守る行動力を育てる取組～</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火災、地震、不審者対応など、様々な状況を想定して避難訓練を毎月実施した。事前事後指導を丁寧に行うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 避難訓練を定期的に行い、非常時の約束事(近くの教師の所に集まる、おかしもち等)を繰り返し確認することで、幼児の安全につ

			<p>で、教師も幼児も安全への意識を高めることができた。</p> <p>○ 持田構内の4校園で合同避難訓練を実施した。同日に幼児の引渡し訓練を行い、導入したアプリを使って保護者への引渡しを訓練し、課題を見出すことができた。</p>	<p>いての意識を高めたい。</p>
<p>子どもの命を守る健康安全・環境整備</p> <p>～安心・安全な保育環境の整備～</p>	A	<p>○ 毎月の安全点検を丁寧に行っている。遊具の劣化、園舎の老朽化に伴う必要な修繕や樹木の剪定を依頼して対応している。</p> <p>○ 草刈りは用務員さんに依頼している。夏季は草が伸びやすいため、お願いする頻度を多くした。</p> <p>○ 年中児保育室の和式トイレを洋式トイレに改修した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内には和式トイレが3か所残っているが、使用する幼児は、ほとんどいない。 ・築山の劣化等改修依頼を毎月大学に提出しているものの、改修・修繕に至らない。 	<p>◇ 園庭や登降園経路の環境整備については、事務課や用務員室と連携を図る。</p> <p>◇ 令和8年度創立140周年記念事業として、築山の改修、総合遊具のメンテナンス、全トイレの洋式化等を予定している。</p> <p>◇ 園庭、園舎の環境整備については、季節に応じて計画的に保護者に協力をお願いして実施する。</p>	

※ 各種評価データを基礎資料とし、協議・考察した結果を自己評価とする。

※ 4段階評価 3.4P以上…A、 2.8P以上…B、 2.8P未満…C